

長期的な視点に立ちつつ、優先して庁内横断的に取り組む、京都市の木文化・森林政策の指針

四方よし！

京都市木文化・森林活性化 SDGS (Start-Dash Guidelines)

「四方よし！」とは

売り手よし（生産性や安全性の向上、新産業の育成などによる持続可能な林業に）

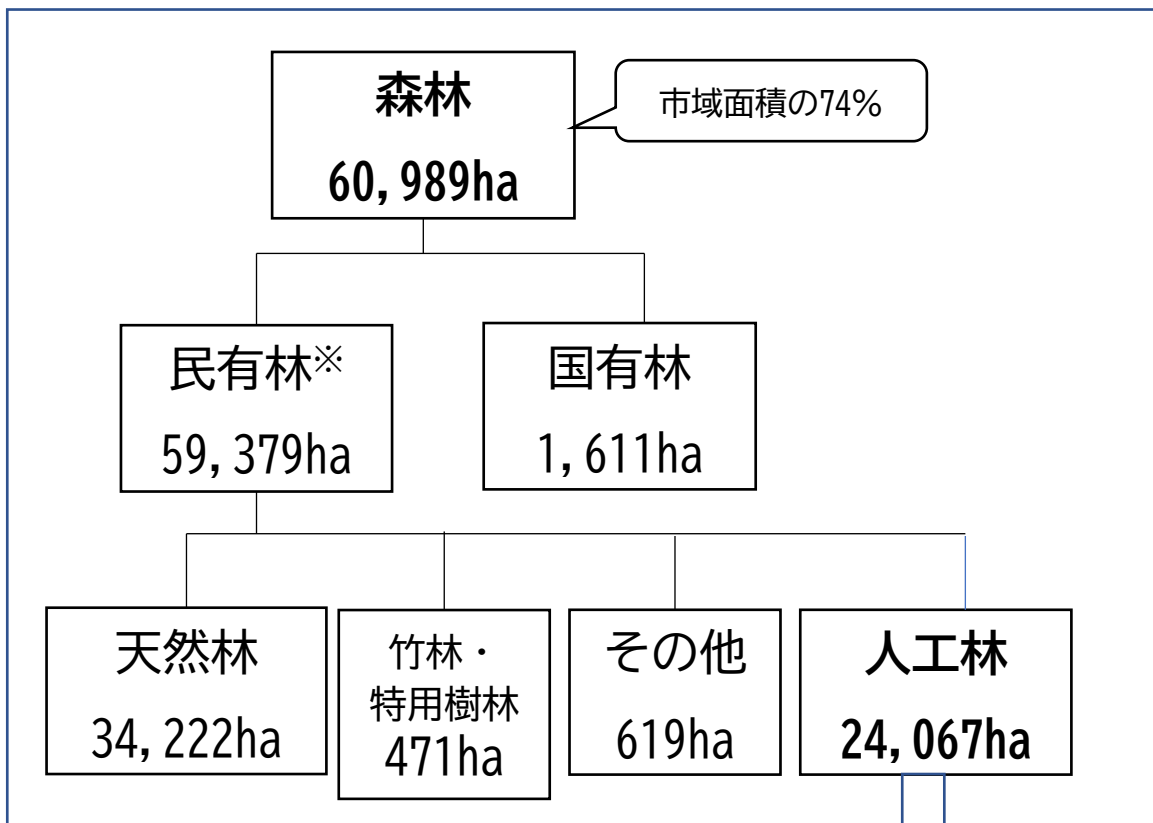
買い手よし（木の文化に触れ、良質な木材の利活用による心豊かな生活に）

世間よし（2030年SDGs達成への多面的な貢献に）

未来よし（2050年CO2ゼロの実現など、持続可能な未来に）

1 京都市の木文化・森林政策の現状と課題

森林を取り巻く状況



(出典) 京都府林業統計 令和2年版
※私有林には、市有林など公有林1,530haを含む

過去10年以内に施業履歴がある人工林 約48%

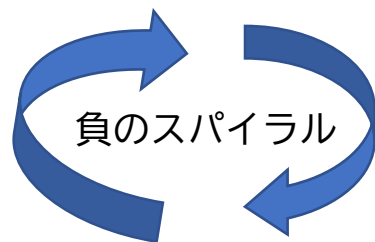
(戦後造林された人工林の大半が伐期を迎えている)

担い手不足
林業労働者は30年間で8割減
(H元：652人→ R元：132人)

木材価格の長期低迷
山元立木価格はピーク時から9割減
(スギ S55(ピーク)：22,707円/m³
→ R元：3,061円/m³)

風倒木災害
災害の甚大化により森林被害額が増加
(H30台風21号による風倒木被害額1.8億円)

シカ等の野生鳥獣による食害被害等
シカ等の野生鳥獣の個体数の増加、行動範囲拡大により苗木の食害被害等が増加
(シカ府内個体数推計H18：5万頭→ H30：9万6千頭)

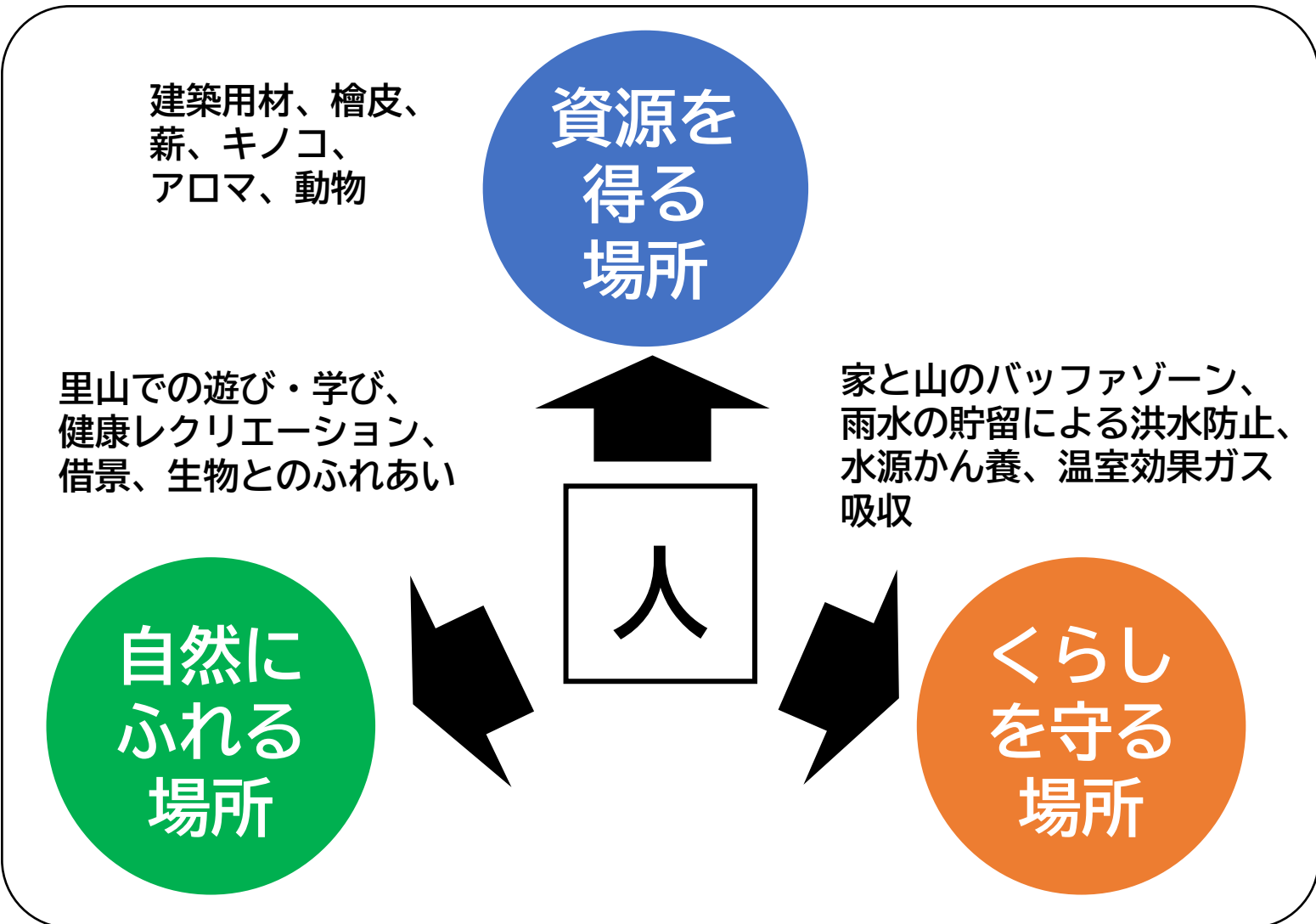


木の文化・森林政策の課題出し（S W O T分析）

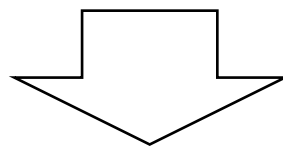
<p>S（強み）</p> <ul style="list-style-type: none">・都市（大消費地）に近い・大学、地域企業が多い・北桑田高校（府下で唯一林業専門学科）・遊休施設（統合小学校など）が豊富 <p>など</p>	<p>W（弱み）</p> <ul style="list-style-type: none">・山の所有者多く・境界不明確・過酷な労働環境（低賃金・危険・重労働）・木材の価格低迷（A材の利用減少）・木材加工技術の遅れ、森林認証の未取得・急峻（なだらかな所が少ない）でコスト高 <p>など</p>
<p>O（機会）</p> <ul style="list-style-type: none">・森林の多面的な価値の見直し、自然志向の高まり・森林経営管理法の施行、国の森林・林業基本計画改定等・地域の主体的な動き・企業のSDGsの意識高まり・ICT技術の進展（スマート林業） <p>など</p>	<p>T（脅威）</p> <ul style="list-style-type: none">・自然災害の激甚化・担い手不足・シカ等の野生鳥獣による苗木の食害被害・地球温暖化・第3次ウッドショック（O（機会）？） <p>など</p>

2 今後の京都市の木の文化・森林政策の方向性

木の文化・森林政策 = 人と森林の関係づくり



人と森林の関わりを増やし、
みんなで森林を存分に使う



使うことで、森林の機能を取り戻すとともに、地域の活性化を目指す

目的・目標と効果

<目的・目標>

「グリーン成長※」を促進するために、
2050年までに人工林の全てを適正に管理すると同時に、
人と森林との関わりを最大限増やす

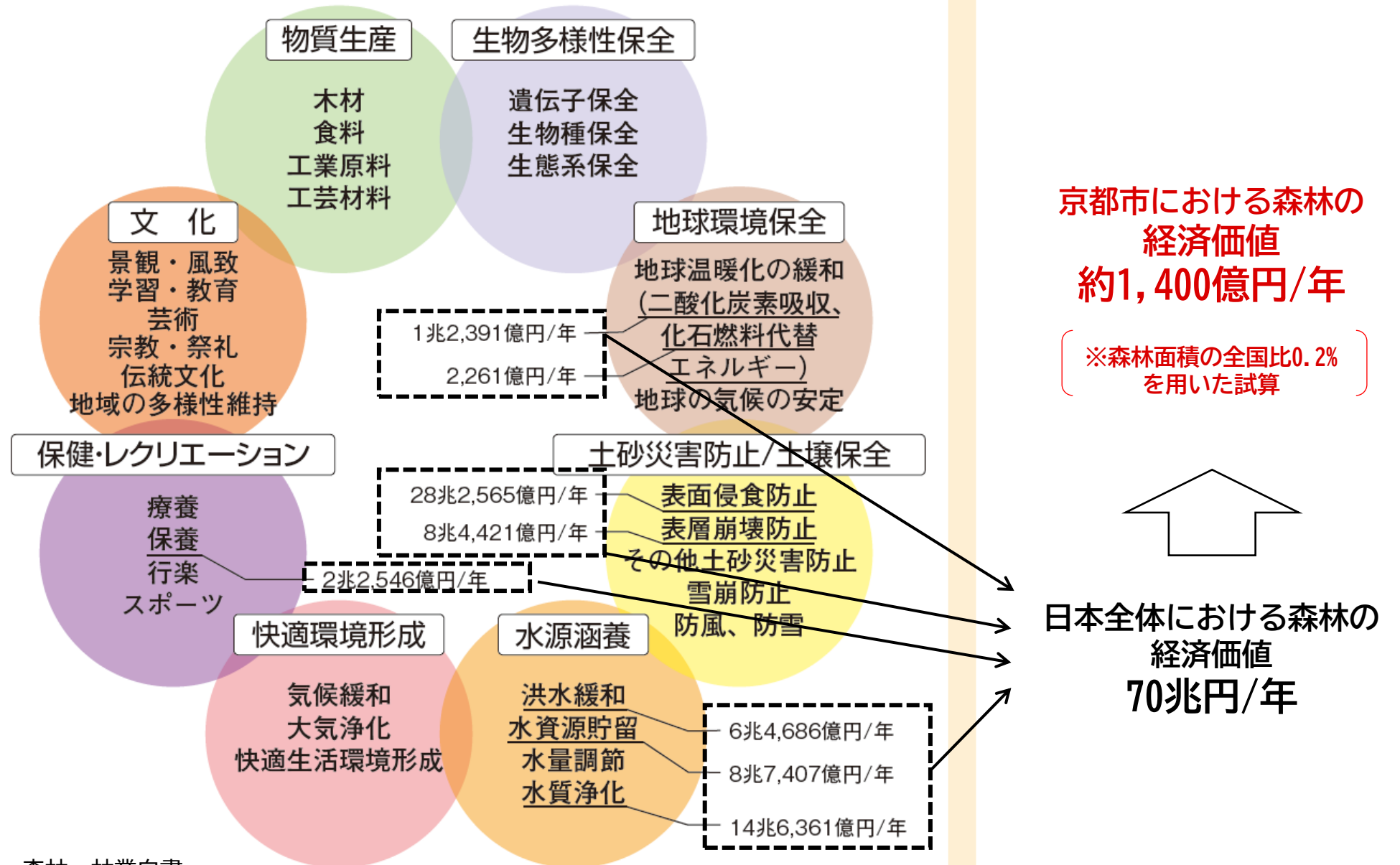
※森林の適正な管理と、森林資源の持続的な利用等により、林業・木材産業が内包する持続性を高めながら成長発展させ、人々が森林により発揮される多面的機能の恩恵を享受することを通じて、社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与すること

<主たる効果>

- ・地球温暖化の緩和 ⇒ 2030年度の温室効果ガス吸収量
1.5万t／年増加 (2018年度比)
- ・経済価値 ⇒ 地球環境保全、土砂災害防止や水源
かん養等の価値
1,400億円／年程度
- ・多面的な効果で都市の持続可能性の向上 ⇒ ∞



森林の多面的機能の経済価値（試算）



(出典) 令和元年版 森林・林業白書

※日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」及び同関連付属資料（平成13(2001)年11月)に基づく

3 京都市木の文化・森林政策推進本部の設置

設置目的

全庁挙げて、木の文化の継承・発展及び森林の有する多面的な機能を最大限発揮させることにより、グリーン成長を促進

基本的な考え方

- **スピード重視**

課題を明確にし、課題ごとの解決に向け、可能なものから着手（短期・中期の視点）

- **柔軟に進化**

本案は柔軟に追加、見直しして進化させる

- **発信を重視**

成果が順々に見えるように、随時進捗を原則公開

- **主体者、財源ともに、民主導を優先（人、金、事を「つなぐ」）**

課題解決に向けた主体者、財源とも、民間主体に重点

- **エリア（地域性）に応じた取組（次ページ）**

エリアごとの大きな方向性

<北部山間地>

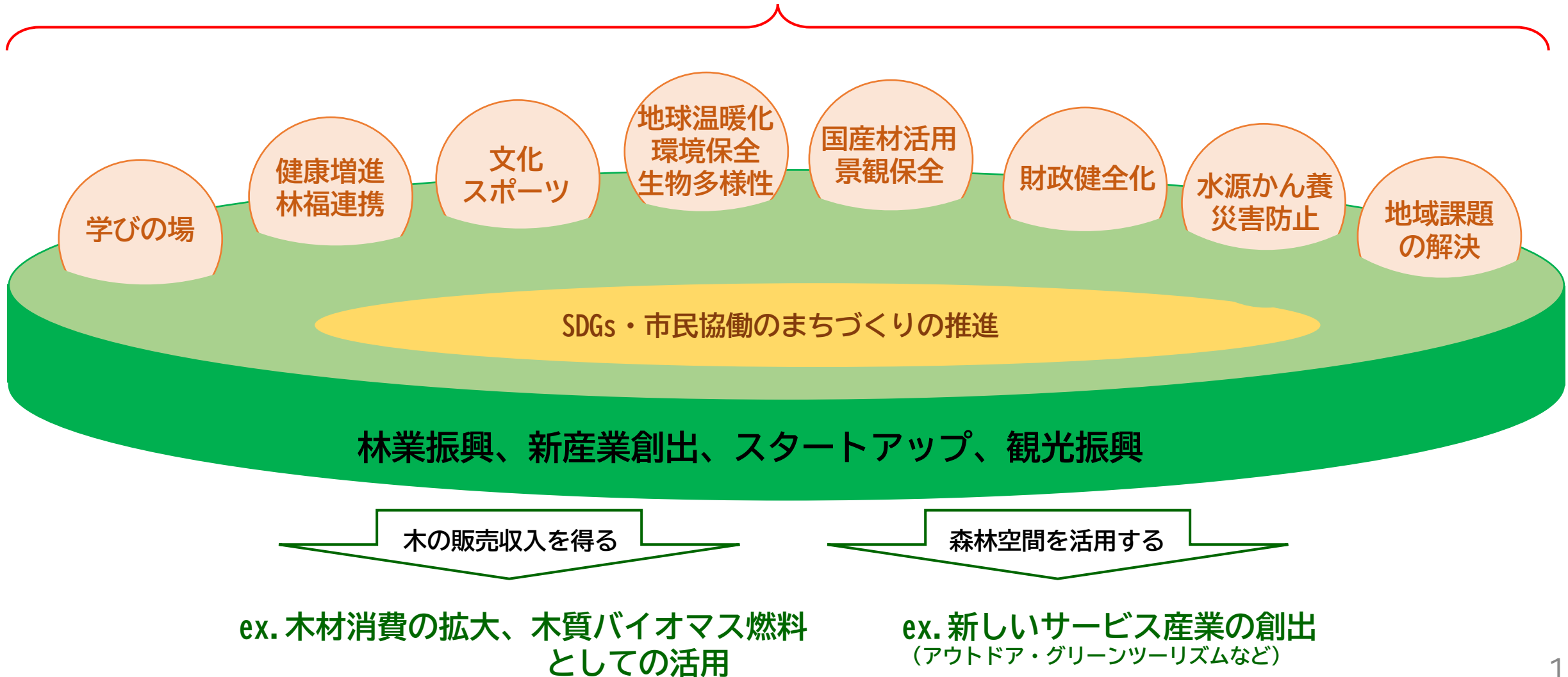
- ・ 林業の集約化、スマート林業等による効率化や採算性の向上
- ・ 災害の未然防止のために必要な森林管理
- ・ 森林サービス産業の振興や6次産業化などにより、農林業の多様性を広げる
以上によって、集落の持続可能性を図る

<北部山間地以外>

- ・ 景観、生物多様性を守るために、市民参加型の修復を図るとともに、竹林の環境整備や放置林等の防災対策に重点を置く

全庁で取り組む「木の文化・森林政策推進体制」のイメージ

それぞれの政策課題を解決するために、
どうやって新しい利益を生むか？



推進体制

【推進本部】

森林政策に関する全庁的な
方針決定・情報共有

木の文化・森林政策推進本部

本部長：副市長、副本部長：木の文化・森林政策監
本部員：局外監、各局区長等
(事務局：産業観光局農林振興室)

【幹事会】

ユニットの新設、ユニット
間の連携・調整等

幹事会

幹事長：木の文化・森林政策監
副幹事長：都市経営戦略監、都市計画局都市政策担当局長、
都市計画局建築技術・景観担当局長、建設局長
幹事：主要ユニットの統括室・部長等

課題解決ユニット（主要5課題ごと）

1 林業低迷

2 担い手不足

3 獣害

4 自然災害

5 人と森の
関係の希薄化

【課題解決ユニット】

- ・ユニットは、原則、課題ごとに関係する課長・係長級等で構成し、必要に応じて、民間、大学等とも連携して課題解決に向けた企画・実行部隊として活動する。
- ・ユニットは、随時立ち上げ、見直しを行う